

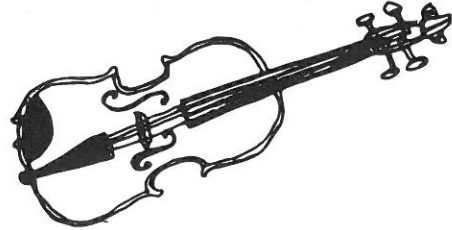
ザ・シンフォニエッタ 第16回演奏会

The Sinfonietta 16th Concert

ヴァイオリンって 楽しいですよ

広瀬ヴァイオリンスクールでは
生徒を募集しています。

新しいヴァイオリンの仲間たちを、
もっともっと増やして弦楽でなければ
出来ないような合奏を楽しみましょう



—レッスン見学は自由にできます、お気軽にお電話して下さい—

広瀬ヴァイオリンスクール

指導 広瀬 卓

日本弦楽指導者協会会員
The Sinfoniettaコンサートマスター

西部教室 熊本市春日7-27-5

神水教室 熊本市神水1-8-9

TEL 096-352-9819

(株)人吉民芸の村
人吉温泉 秘境

かくれ里の湯

人吉市大岳町三二四八
TEL(0966)二三の一一一一

ENCUENTROS LATINOS

ラテン文化交流センター&LANGUAGE SCHOOL



スペイン語
フランス語
ポルトガル語
英会話
ダンス (サルサ)
音楽 (ギター)

TEL/FAX 096-354-0596

860-0801 熊本市安政町1-23 金井ビル6F
dannjyp-02@yahoo.co.jp

このプログラムを
持参した方は
入会金免除!

いままでと違う自分が発見できる…
ウェルフェア大谷

カルチャースクール

只今、無料体験レッスン実施中!

ダンス系、美術文化系、語学系、音楽系の人気コースを
取り揃えております。

(有) ウェルフェア大谷

〒862-0971 熊本市大江6丁目30-3
TEL 096-211-5405 FAX 096-371-0677
<http://www.welfareohtani.com>

壺之倉庫
式ノ式
さくらさくら
YOKOBACHI

熊本上通
路地裏界限
遊・楽・歩・食
酒・肴・飯・菜

パンフレット・ポスター・チラシ
フォーム伝票・カレンダー・名刺

B C 櫛 山

〒860-0821 熊本市本山4丁目3-22
TEL (096) 354-3515
FAX (096) 354-3516
E-mail:bc-k@crocus.ocn.ne.jp

2003年2月23日(日)

熊本県立劇場コンサートホール

プログラム



● モーツァルト作曲

交響曲 第29番 イ長調 K.201

(約25分)

● シューベルト作曲

交響曲 第8番 口短調 D.759

〈未完成〉

(約25分)



休 憩

● シューマン作曲

交響曲 第1番 変口長調 作品38「春」

(約35分)

指 揮 / 藤 崎 凡

管 弦 楽 / ザ・シンフォニエッタ



ごあいさつ

本日は、お忙しい中私どもザ・シンフォニエッタの演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

1987年1月の第1回演奏会以来、ここ熊本県立劇場での演奏会も今回で16回目を迎えることができました。これもひとえに皆様方の温かいご支援の賜物と、メンバー一心から感謝しお礼申し上げます。

さて、今回は交響曲を3曲というプログラムですが、1曲目のモーツァルトの第29番は彼の若い時期のものの中でも演奏される機会の多いもので、優雅さ・若々しい躍動感に溢れた曲です。2曲目はシューベルトの「未完成」です。前回「ザ・グレート」を演奏しており、2回連続してシューベルトの交響曲をとりあげますが、一般的な捉え方のひとつとして、「未完成」と「ザ・グレート」はその性格において「柔」と「剛」という対極にあるとするものがありますが、これについては、練習を進めていく中でいろいろと認識し直したことがあり、そのことを本日の演奏で表現できるよう努力したいと思います。

そして、休憩をはさんで3曲目はシューマンの「春」です。古典派の作品を演奏することを大きい目的のひとつにして活動を始めた私どもの団体ですが、これで(2曲目の「未完成」を含めて)3回連続でロマン派の作品を演奏します。古典派から発展したものながら、表現・技術の双方ともベートーヴェンなど古典派のものとはかなり違ったものが要求され、練習はなかなか進みませんでした。それだけに新しいものに触れる喜びは大きいものがあります。本日は私どもの編成ならではの表現をお楽しみいただきたいと思います。

指揮の藤崎 凡 氏には、今回で7回の演奏会を連続してご指導いただきます。いつもながら、私どもの未熟な技術を高めつつ、それぞれの作品のこれまで気づかなかった魅力に目を向けさせていただき、メンバー一同感謝しております。

私どもの活動も18年目を迎え、メンバーも少しづつ入れ替わっていますが、演奏する1曲1曲を大事にし、自分たちが感じる事ができた魅力を皆様にお伝えできるよう努力することを忘れないよう活動を続けていきたいと思っております。これからは私どもザ・シンフォニエッタにご指導・ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2003年2月23日

ザ・シンフォニエッタ 代表 清 永 健 介

プロフィール

藤 崎 凡 (ふじさき ぼん)

1957年東京生。慶応義塾大学を卒業後、桐朋学園大学音楽部にオーケストラ研究生（指揮専攻）として入学。在学中指揮を秋山和慶、小澤征爾、尾高忠明、高階正光、J・フルネの各氏に、ピアノを池田素子氏に、それぞれ師事。

1986年3月同課程修了。同年宮城フィルハーモニー管弦楽団（現、仙台フィルハーモニー管弦楽団）の指揮者オーディションに合格。1988年にはアメリカのタングルウッド・ミュージックセンターに留学、L・バーンスタイン、G・マイヤー等のクラスで研鑽を積んだ。帰国後は、創設間もないオーケストラ・アンサンブル金沢に招かれて多くのコンサートを指揮するとともに、新しいオーケストラの基盤づくりに貢献した。その後、群馬交響楽団と約3年間ほど同県内各地で子どものためのコンサートを行ったほか、各地のオーケストラや合唱団に招かれて多くのコンサートを指揮。一方、1990年からは洗足学園大学オペラ研究所の講師として学生の指導やオペラ公演の指揮などの分野でも積極的に活動している。



ザ・シンフォニエッタ

結成から18年目を迎えた小編成のアマチュア・オーケストラ。この数年は継続して藤崎凡氏の指導を受けており、そのほかこれまでに山下一史、安永徹、篠崎史紀、小野富士の各氏をはじめとする、素晴らしい音楽家の指導を受けながら、常に演奏の質の向上を目指して一生懸命活動を続けています。

月2回の合奏の練習と随時のパート練習を行いながら、8～10カ月の間隔で熊本県立劇場での演奏会を行うほか、スクールコンサート等の活動を行っています。

ザ・シンフォニエッタ ホームページ <http://www5d.biglobe.ne.jp/~sinfonie>

曲目紹介

§ モーツァルト作曲 交響曲 第29番 イ長調 K.201

第29番は、モーツァルト18歳の1774年に作曲された中期交響曲の最高傑作です。高名な物理学者アインシュタインは、前年に書かれた第25番とともに、「ひとつの奇跡」と形容したそうですが、実際のところ、この2作はそれまでの社交的・娯楽的なイタリア様式から脱却して、モーツァルトの交響曲創造の大いなる飛躍を示すとともに、第35番以降の後期交響曲の出現を先触れしています。

*第1楽章

第1ヴァイオリンが奏でる清楚な第1主題と、それを支える弦楽器の絶妙な動きからして、新しい交響曲の芽生えを実感させる。やや甘やかな第2主題との絡みと展開の妙、コーダもこれまでで最も長く、堂々としている。

*第2楽章

至純な美しさをたたえた魅惑的な緩徐楽章。各弦楽器とオーボエの旋律にはそれぞれの思索がこめられている。

*第3楽章

リズムが重厚さのあるメヌエットに挟まれたトリオ（中間部）には、ふくよかな詩情が漂っている。

*第4楽章

軽快な第1主題を中心に、常に緊張感をたたえながら巧みに展開されるフィナーレ。爽快に、そしてドラマチックに全曲が閉じられる。

§ シューベルト作曲 交響曲第8番 口短調 D.759 <未完成>

シューベルトは1822年10月にこの交響曲に着手、その2年後に完成した二つの楽章をグラーツの音楽協会に献呈しました。スコアを託された同協会の役員は、残りの二つの楽章もやがて贈られてくるものと思い、それを手元に残していました。けれども、残りの楽章の献呈は実現せず、43年を経た1865年5月にウィーンの指揮者ヨハン・ヘルベックによって発見されるまでスコアはそのまま忘れられてしまっていたのです。初演は発見直後の1865年12月17日にウィーンのムジークフェラインザールでヘルベックの指揮で行われています。

シューベルトがなぜ二つの楽章しか書かなかったということは永久の謎ですが、この交響曲は、形式的にはともかく、内容的には二つの楽章のみで完結した世界を形成していることも確かです。全曲にはシューベルトならではの美しい歌とロマン的情感が満ち溢れており、その魅力はそうした形式的な弱点を補ってあまりある作品となっています。

*第1楽章

低弦（チェロ・コントラバス）が地の底から湧き上がるような旋律で始まる。この旋律の初めの2小節は全曲のなかでしばしば姿を現す重要なもの。続いてクラリネットが

哀愁を帯びた美しい第1主題を奏でる。またチェロの歌う第2主題も高貴に溢れている。

*第2楽章

展開部を欠いたソナタ形式。低弦のピチカートに導かれ、ヴァイオリンが優美な第1主題を歌う。それに続く第2主題は木管による憧れに満ちたもの。音楽はシューベルトならではの転調を繰り返し、夢見心地のうちに進んで行く。

§ シューマン作曲 交響曲第1番 変ロ長調 作品38「春」

シューマンには才色兼備で、優れたピアノの腕前を持つ妻クララがいました。彼女はシューマンの文字通り心の支えであり、またシューマンが精神病にかかって働けなくなると演奏会を開いて家計を切り盛りしていました。そのクララは夫に対して「世間で一流の作曲家として認められるには、やはり交響曲を発表することが必要」と進言していましたが、実際に形になるには時間がかかりました。しかし、1839年にシューマン自身が発見したシューベルトの交響曲第9番「ザ・グレート」を聴き、ようやく最初の交響曲の具体的な構想が頭をもたげてきたのです。直接の題材となったのは、当時シューマンと交遊のあった詩人ベットガーの詩で、これをもとに彼は1841年1月から取り掛かり、翌月にはほぼ完成するという異例のスピードでした。初演は1841年3月31日に当時ライプツィヒ・ゲヴァントハウスの音楽監督であったメンデルスゾーンが指揮をしましたが、結果は大成功であり、これには妻クララも大いに満足したといわれています。なお、シューマンは初演時、各楽章に順に「春の始まり」「夕暮れ」「楽しい遊び」「春たけなわ」という題名をつけていましたが、これらはその後すべて削除され、曲全体の「春」という呼び名だけが残されました。曲想はその題名通り、たいへん明るく生き生きとしたものです。

*第1楽章

いかにも春を呼び覚ますようなトランペットとホルンの響きに、総奏が応える。これが曲全体のモットーになる。第1主題はモットー音型を軽やかに縮小したもの、第2主題はやや翳りを帯びた木管の旋律である。

*第2楽章

中心主題は息の長い旋律で、モットー音型の余韻を響かせている。終わり近く、トロンボーンがコーラル風の響きで続くスケルツォの主題を暗示し、そのまま間を置かず第3楽章が始まる。

*第3楽章

二つのトリオを持つスケルツォ。野生味を帯びた主題があり、第1トリオは、同音反復の音型にモットーとの連関が感じられる。第2トリオは、テンポ・拍子はスケルツォと同じだが、変ロ長調に転ずる。

*終楽章

勢いよく駆け上がる短い序奏は、モットー後半の発展形。軽やかな第1主題に続いて推移部では、三年前のピアノ曲集「クライスレリアーナ」の旋律が登場。第2主題は楽章冒頭の音型と同じリズムの持ち、晴れやかで活気に満ちている。

出演者名簿

§ コンサートマスター

廣瀬 卓

§ 第1ヴァイオリン

泉 勇 気
大宮 伸 二
清永 育 美
定永 明 子
瀬畑 健 雄
東家 容 子
山下 純 子

§ 第2ヴァイオリン

大宮 協 子
岡本 侑 子
清永 健 介
丁 睦 美
中澤 康 子
古市 敬 子
山口 祐 子
山田 容 之

§ ヴィオラ

和泉 希代子
太田 由美子
杉谷 耕 治 *
田代 典 子
村上 万 里 *

§ チェロ

関 栄
瀬畑 むつみ
東家 隆 典
松本 幸 二

§ コントラバス

桑原 寿 哉 *
歳田 和 彦
中川 裕 司 *

§ フルート

田島 公 敏
中澤 邦 男

§ オーボエ

橘 徹
吉田 千 草

§ クラリネット

岡村 ク ミ
府高 明 子

§ ファゴット

柴田 義 浩
星出 和 裕

§ ホルン

伊藤 友 美
奥羽 朋 子 *
川崎 華 奈
田中 禎 子 *

§ トランペット

出口 文 教
福島 敏 和

§ トロンボーン

児嶋 美 穂 *
寺本 昌 弘 *
右田 順 二 *

§ ティンパニ

福島 好 *

§ トライアングル

山中 美 幸 *

* は賛助出演

次回の 御案内

ザ・シンフォニエッタ第17回演奏会

と き：2003年10月26日(日)

と ころ：熊本県立劇場コンサートホール

指 揮：藤 崎 凡

独 奏：小 野 富 士

曲 目：ウォルトン作曲 ヴィオラ協奏曲

ベートーヴェン作曲 交響曲第5番「運命」 ほか